

(6) 2018年(平成30年) 5月31日(木曜日)

聖書は、人類の救いの歴史の書物で、そこには実話が多く記録されているが、それらをよく調べて行くと、実話でありながら、やがて起ころうとしていることを預言しているものが多いことに驚く。その一つが、創世記にあるヤコブが神と格闘した話。

長子の権利をエサウから騙し取ったヤコブは、親の勧めで叔父のラバンのところに20年ほど滞在して再び故郷に帰って来る。しかし、いざその地に入ろうとする時、自分を恨んでいる兄に会うのが恐ろしくて足が進まず、その夜ある人と格闘した。それが実は、神ご自身であった。この「格闘する」という動詞は、砂埃を上げる意味で、何かの武器で戦う意味ではない。ヤコブがあまりにも強く、勝負はヤコブの勝ちになるが、最後にこの人がヤコブ

の腰のつがいに触れると、そこが挫(くじ)かれた。ちょうどその時太陽が上り始めたので、その人が去ろうとする

と、ヤコブは彼に祝福を求めた。その人が「お前の名は何だ」と聞くので、ヤコブが「ヤコブ(かかとを掴む)で

生まれ、その中のユダ族からキリストが生まれた。彼と格闘したのは、神でもあり人でもあったイエス・キリストのこと。彼が最初ヤコブに負けたのは、キリストがイスラエル人によって殺されること

を指す。しかし、それがゆえに、夜空にくつきりと見えるオリオン座と牡牛座の状況にそっくり。牡牛座の牛がヤコブで、それと格闘するのがオリオン座。

### 南加キリスト教会連合

## ヤコブと神との相撲

浅井 導

「す」と答えると、彼に「イスラエル(神が戦う)」という新しい名前が与えられた(話の中でヤコブが神と戦うの意味に説明しているのは皮肉)。

「ご存知のように、このヤコブからイスラエルの12部族が

に、イスラエルの民は裁かれ、世界中に散り散りにされて苦しみを受ける。つまり、腰を打たれる形になる。それでも、この神がイスラエルを愛して祝福されることには変わりない。

古代の人々は、星は霊の世界にあるもので、そこで起きることが地上でも起きると信じていた。したがって、ヤコブがヤボクの渡しを渡ったのもこの頃のはず。さらに、彼が打たれた腰の筋は、闘牛で言えば、首の筋(牡牛座は下半身がないので)にあたり、そこにはちょうどスバル座が位置していて、闘牛の力を象徴している。それが打たれて壊された(シユバルとはヘブル語で壊す意味、ヨブ記38:31参照)。

「す」と答えると、彼に「イスラエル(神が戦う)」という新しい名前が与えられた(話の中でヤコブが神と戦うの意味に説明しているのは皮肉)。

「ご存知のように、このヤコブからイスラエルの12部族が

に、イスラエルの民は裁かれ、世界中に散り散りにされて苦しみを受ける。つまり、腰を打たれる形になる。それでも、この神がイスラエルを愛して祝福されることには変わりない。

古代の人々は、星は霊の世界にあるもので、そこで起きることが地上でも起きると信じていた。したがって、ヤコブがヤボクの渡しを渡ったのもこの頃のはず。さらに、彼が打たれた腰の筋は、闘牛で言えば、首の筋(牡牛座は下半身がないので)にあたり、そこにはちょうどスバル座が位置していて、闘牛の力を象徴している。それが打たれて壊された(シユバルとはヘブル語で壊す意味、ヨブ記38:31参照)。

(ダヴァール神の国教会牧師)